

平成17年2月7日

武庫川流域委員会
委員長 松本 誠 様

武庫川流域委員会
ワーキンググループ（農地・森林）
主 査 加藤 哲夫

ワーキンググループ（農地・森林）における作業手順について

ワーキングにおける農地・森林部門の作業手順を提出します。

なお、期間につきましては、再度グループメンバーと意見交換したうえで決定し報告しますので、宜しくお取り計らい願います。

記

1. 趣 旨

河川整備基本方針の策定について、総合治水の観点から検討するに当たっては、武庫川流域における農地・森林は約8割を占めており、治水・利水・環境に及ぼす影響は極めて大きいものと考えられる。なかでも森林については、これまでの流域委員会やリバーミーティングにおいて、森林に対する大きな期待が寄せられるとともに、手入れ不足による荒廃状況が懸念されている。

このため、武庫川流域における農地・森林の現状を把握し、治水等についてその効果及び農地・森林の果たす役割について提案方策を検討する。

2. 背 景

(1) 農地

武庫川流域の内約80km²を占める農地や溜池及びダムについては、防災用貯留施設として整備することが望まれる。

(2) 森林

①武庫川流域の森林は、約310km²を占めているが、人工林率(全森林に占める人工林の割合)は、11%と低位である。

このため、県民の森林に対する期待は、水土保持・保健文化・生物多様性など多岐に亘っている。

②森林の保水効果については、従来の国土交通省の考え方について、一部の学者や市民から問題提起されているが、現段階ではデータも少なく学術的にも認知されたものではない。

しかし、基本高水の決定に際して、森林の水源涵養としての効果について、検討のうえ提案する。

③土砂災害の防止並びに河川環境を守る観点から、治水・砂防事業と併せて森林整備が望まれる。

3. 交流

治水・利水・環境について総合治水の観点で推進には、上・下流の相互理解が不可欠であり、その手段としての交流が望まれる。

4. 作業手順

| | 検討項目 | 調査内容 | 調査方法 |
|----|----------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|
| 農地 | 農地の貯留効果について ①畦畔の嵩上げ ②溜池の嵩上げ ③遊水池の設定 ④地役権の設定 ⑤ダムの嵩上げ | ①農政の基本的事項について意見交換 ②溜池の管理状況 ③休耕田等の状況 ④調整池の状況 ⑤現地調査 | ワーキングメンバーが出向き、各担当部局から事情を聴取 (県担当部局) 農林水産部 ・農地整備課 |
| 森林 | 保水・土砂管理などについて ①森林整備による効果 ②治山・砂防事業 ③保水効果の検証 ④河川環境に及ぼす影響 ※基本高水を決定する際の土砂の取扱いについて | ①森林整備及び治山・砂防事業の実施状況及び実施計画 ②災害に強い森林づくり ③現地調査 | ワーキングメンバーが出向き、各担当部局から事情を聴取 (県担当部局) 農林水産部 ・林務課 ・治山課 県土整備部 ・砂防課 |
| 交流 | 流域管理の観点から、上・下流の交流について | | |

5. 期間

調査時期・取りまとめ時期・・・・未定